

CASBEE® 京都-新築

評価ソフト(標準システム)

バージョン CASBEE 京都-新築2018 (v.1.0)
 ■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	(仮称)大阪材木町ホテル計画	
■ 建設地・地域区分	京都市中京区堺町通姉小路下る大阪材木町700番、696番1	6地域
■ 地域・地区	職住共存特別用途地区、準防火地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2020年3月	予定
■ 敷地面積	730.68 m ²	
■ 建築面積	451.74 m ²	
■ 延床面積	2,422.11 m ²	
■ 建物用途名	ホテル又は旅館	
	ホテル,	
■ 階数	地上5F、地下1階	
■ 構造	RC造	
■ 平均居住人員	100 人(想定値)	
■ 年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	

② 評価の実施

■ 評価の実施	2019年3月15日	実施設計段階
■ 作成者	松本拓也	
■ 確認日	2019年3月16日	
■ 確認者	定森淳一	
■ LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	0.00 m ²	事務所	m ²
		官公庁	m ²
学校	0.00 m ²	幼稚園・保育園	m ²
		小・中学校	m ²
		小・中学校(北海道以外)	m ²
		高校	m ²
		大学・専門学校	m ²
物販店	0.00 m ²	デパート・スーパー	m ²
		その他物販	m ²
飲食店	m ²		
集会所	0.00 m ²	劇場・ホール	m ²
		展示施設	m ²
		スポーツ施設	m ²
工場	m ²	うち省エネ計画対象面積	m ²
病院	m ²		
ホテル	2422.11 m ²		
非住宅 小計	2,422.11 m ²		
集合住宅	0.00 m ²	専用部	m ²
		共用部	m ²

② 住居・宿泊部分の比率

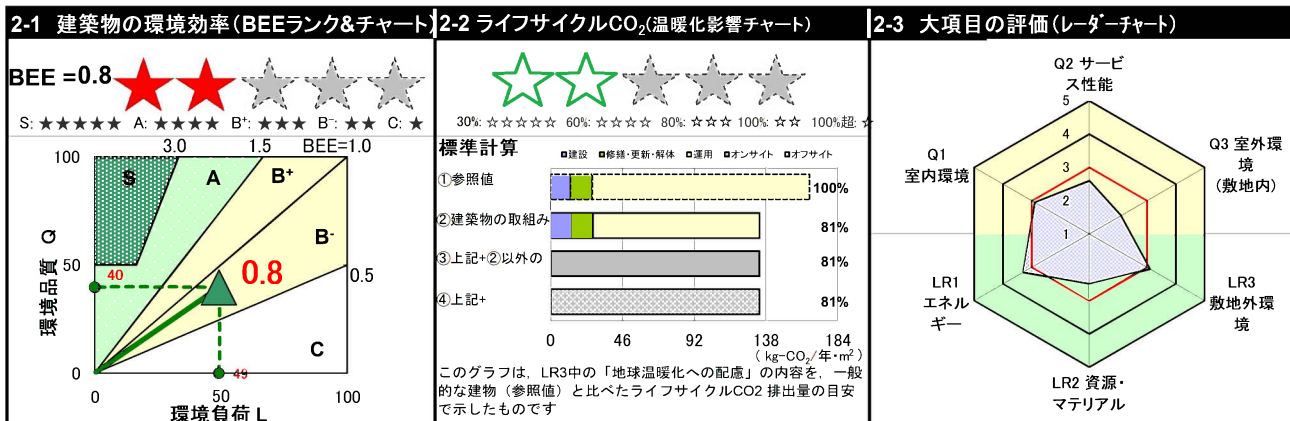
■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	0.52134296
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

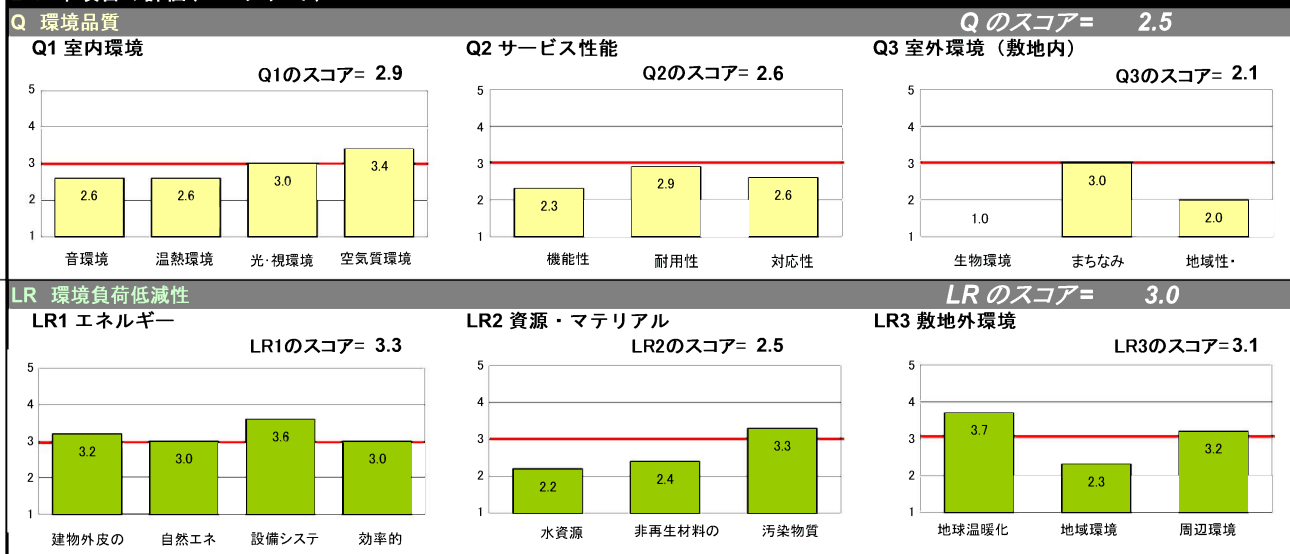
標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪材木町ホテル計画	階数	地上5F、地下1階
建設地	京都市中京区堺町通姉小路下る大阪材木町700番、696番1	構造	RC造
用途地域	職住共存特別用途地区、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年3月15日
敷地面積	730.68 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	451.74 m ²	確認日	2019年3月16日
延床面積	2,422.11 m ²	確認者	定森淳一



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
・ 景観への配慮、省エネルギーシステムの向上に努めている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ 昼光率、換気性能への配慮。	・ 広さ感、建材の防汚性への配慮。	・ 景観条令に配慮されている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・ 省エネルギーシステムの高効率化に努めている。	・ 防水工事のプライマー等、化学物質の使用削減に努めている。	・ LCCO ₂ 排出率を80%に削減する等、地球温暖化防止に努めている。 ・ チェックリストの過半を満たす、広告物照明無し等、光害の抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1 建物概要			
建物名称	(仮称)大阪材木町ホテル計画	BEE	0.8
延床面積	2,422.11 m ²		B-
用途	ホテル又は旅館 ホテル		★★
		使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE 京都-新築2018(v.1.0)	
2 重点項目への取組度			
キーワード		取組度	
1 大切に使う			
2 とともに住まう			
3 自然からつくる			
3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
1 大切に使う		合計点 21 /41	
■長寿命化		合計点 12 /20	
◇メンテナンスの容易性		◇物理的長寿命	
Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性	スコア 3	Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数	スコア 3
Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性	スコア 3		
Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性	スコア 3		
Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性	スコア 3	◇社会的長寿命	
Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性	スコア 3	Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
(注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)		Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ	スコア 3
■省資源		合計点 9 /20	
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	スコア 2		
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	スコア 3		
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	スコア 1		
LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 3		
◆独自加点項目		合計点 0 /1	
LR2/ 2.1 材料使用量の削減	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外	
LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		
2 とともに住まう		合計点 14 /42	
■自然とともに住まう		合計点 7 /15	
◇自然を感じられる計画		◇地域環境やコミュニティへの配慮	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	スコア 1	Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 2
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2	LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	スコア 3
■歴史とともに住まう		合計点 3 /10	
◇歴史性への配慮			
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 1		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 2		
◆独自加点項目		合計点 0 /2	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。		
LR3/ 3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組みを、1以上実施している。		
3 自然からつくる		合計点 28 /50	
■自然材料の利用		合計点 5 /15	
Q2/ 1.2.3 内装計画	スコア 1		
Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上	スコア 2		
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 2		
■自然環境の利用		合計点 22 /30	
Q1/ 3.1.1 屋光率	スコア 5	LR1/ 2 自然エネルギー利用	スコア 3
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	スコア 3	LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 3
Q1/ 3.2.1 屋光制御	スコア 3		
Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 5		
*各階Aタイプ客室-6.80%			
*居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している			
◆独自加点項目		合計点 1 /5	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		
Q1/ 3.1.3 屋光利用設備	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
Q1/ 3.2.1 屋光制御	デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の屋光利用設備を採用している。		
LR1/ 3 設備システムの高効率化	評価する取組みのうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く)		
上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。			
4 低炭素景観の創出に関する評価			
□ Q1/3.1.3 屋光利用設備		□ Q1/3.2.1 屋光制御	□ Q3/1 生物環境の保全と創出
□ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上		□ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	□ LR3/3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策
		低炭素景観	取組数 /6項目
5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値)	134.01 kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル	CO ₂ 削減率 +19.3%
CO ₂ 削減率	166.07 kg-CO ₂ /年m ²		
	-32.05 kg-CO ₂ /年m ²		
6 ウッドマイレージCO₂とCO₂削減率			
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果		ウッドマイレージ	CO ₂ 削減率 0%

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)大阪材木町ホテル計画

■使用評価マニユ: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											2.5
Q1 室内環境											2.9
1 音環境							2.6	0.15	2.6	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル							3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音							3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能							3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音							1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境							2.6	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御							3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温							3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能							3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性							3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御							1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式							3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境							2.7	0.25	3.3	1.00	3.0
3.1 昼光利用							3.0	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		●自然	A(全国版準用)	各階Aタイプ客室~6.80%			-	-	5.0	0.60	
2 方位別開口							-	-	-	-	
3 昼光利用設備		●自然	B(推奨内容)				3.0	1.00	3.0	0.40	
3.2 グレア対策							2.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御		●自然	B(推奨内容)				2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度							3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御							3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境							3.3	0.25	3.5	1.00	3.4
4.1 発生源対策							3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質							3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気							4.0	0.30	4.3	0.38	
1 換気量							5.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能		●自然	A(全国版準用)	建築基準法の1.4倍の風量を確保 居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している			3.0	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮							3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視							3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御							3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-	2.6
1 機能性							2.2	0.40	2.5	1.00	2.3
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	3.5	0.60	
1 広さ・収納性							3.0	-	4.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応							3.0	-	3.0	0.50	
3 バリアフリー計画		●大切	D(独自基準)				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性							1.0	0.30	1.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)		●とも	C(独自加算)				3.0	-	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース							3.0	-	-	-	
3 内装計画		●自然	D(独自基準)				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理							2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計							3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保							2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性							2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振							3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能							3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数							3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		●大切	A(全国版準用)				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.20	-	-	